

令和3年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和3年10月19日

校番	010	学校名	尾道北高等学校	校長氏名	藤本 秀穂	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 困・分
----	-----	-----	---------	------	-------	---	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画賞の形式が学校主体から、生徒主体に変わっている。しっかりと現状分析の上、全教職員で共有されるよう取組みをお願いします。 ・適切な短期経営目標が設定されており、指標、行動計画との整合性が取れている。また、それらは現代的な課題に端を発しており、求める生徒像が明確である。 ・経営目標である「(1)生徒が主体的に学ぶ力を育てる」では、授業評価アンケートを生徒自身に回答させることで、自身の現状を全体と比較して把握させることができ、今後の学習意欲の向上につながる効果的な手法であると考えます。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況の中で、ほぼ適宜適切に取り組まれ評価されていると思料する。 ・厳しく自己点検をされており、批判的に計画の進捗状況を確認することができている。新型コロナウイルス感染拡大防止による教育活動への制限が続く中、少しでも前に進めようとする状況が進捗状況の評価から理解ができる。 ・授業評価アンケートの「問う力」の質問に対する肯定的割合は、全学年で76.9%となっており、令和2年度の74.3%から着実に伸び、目標値80%に向けて順調に推移していると考えられる。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・チューター制の充実・深化、ICT活用の推進等、目標達成に向けた取組みを評価する。 ・様々な制限がなされ、遠隔授業や、感染対策によって、目標が達成されていない部分はあったことは想像できる。今後の取組みに期待している。 ・経営目標である「(2)自他を尊重し、豊かな人間関係を培う」では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中、年12回開催予定のチューター制を9月末時点で第6回まで実施しており、生徒の93.7%がチューター制の取組みに肯定的となっている点が評価できる。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとの分析については判断材料不足であるが、「問う力」の育成に係る取組みと分析は評価する。 ・数値化された評価や、具体的な評価となっており、評価結果の分析が説得力のあるものとなっている。よって、評価結果の分析については適切であると考えます。 ・入試説明会の参加者数が前年から倍増したことや、オープンスクール参加者数が昨年を上回ったことについて、広報誌による紹介やHPの更新を着実に進めたことで、北高に対する関心度も高くなったと分析できており、さらなる魅力度の向上策を期待する。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「尾北の学び」をどう継承するのか、尾北教育にとっての不易と流行は何か。整理が必要ではないでしょうか。 ・コロナ禍における学習スタイル、行事スタイルの見直し、新しい国際交流の提案など、やや具体的な改善方策となっていない部分はあるが、生徒を中心に考え、生徒とともにそれらの改善方策を試案していく様子が運営委協議会の議論の中から伝わってきた。 ・自転車通学のマナー向上や、長江小学校の児童とのふれあいなど、地域に対する社会貢献に対して、コロナの感染状況を踏まえたうえではあるが、あいさつ運動など、生徒が主体的に活躍できる取組みを行っていった点は評価できる。 ・オープンスクールの保護者座談会について、事前に学校と保護者で情報交換して、より充実した内容にしてほしい。自転車のマナーについては生徒たちで自主的なルールを作成してほしい。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中期経営目標((1)~(3))に連動した評価シートになっていないので評価しづらいですが、ほぼ自主的、自立的な学校経営が推進されていると思料する。 ・チューター制度、ICTの積極的な活用、オープンスクール参加者の増員など、肯定的に評価できる要素が多岐にわたって見られる。今後はさらに、新たな教育活動を創造し、発展させ、学びの進化を目指していただきたいと思う。 ・ICTを活用したClassiや、MetaMojiの研修会を複数回実施することで、積極的に活用する教員も増えてきており、授業の効率化や幅も広がっていることは評価できる。今後もICTの活用に取り組むとともに、教科の特性に合わせた研修会を行うことで、さらなる授業の質の向上に努めていただきたい。 ・チューター制度の浸透により、北高文化の伝統継承と生徒の人間性、主体性が育っていることは評価できる。ICTの活用により、教職員の労働時間の短縮につながることを期待する。